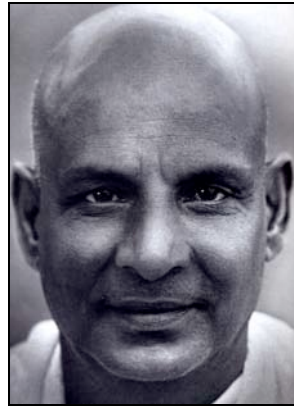




人生が私に教えたもの



**Swami Sivananda**

September 8 1887~ July 14 1963

私の若い頃のある日、それは閃光のように閃いたのです。眼前にくり広げられる現実のできごとだけではない、我々に見えるものよりもっと高いものが私たちをコントロールし、指図しているのではないかと気がついたのです。もっと大胆に言えば、“地球上の我々が生活と呼んでいる”以外の現実が見え始めたといつてよいでしょう。私たち、人間が落ち着けず、病的に不安感を抱いて毎日暮らしていること自体が、いつの日かもっと違う高次元の世界に辿り着けることを願っているからではないでしょうか。

人間は利己、欲望、貪欲、憎しみのクモの巣にひっかかってしまった時、自身の内側に何かあるのか分からなくなるのです。物質主義・懐疑の世界はその人の魂を乗っ取ってしまいます。そうなった人は小さなことにもイライラし、争いに明け暮れるようになるのです。なぜ人間はこうも不幸なのか、医者という職業が私に多くの苦悩の症例を見せつけました。

すると、厳格な自己規制と苦行とが、私にこの世の有為転変による痛手を受けずに生きられる強さを与えてくれました。そうして、私は新しいビジョンと、ものの見方の能力を得たのです。そして、純朴な栄光、神聖な輝きに包まれたスイートホーム、何の心配もなく、平和、幸福が永遠に楽しめるところがあるという啓示を受けたのです。シュルティ\*の教えに従い私は現俗を捨て、もっと大きな世界の中に住み替えました。このようにして私が得た新しいビジョンを、さらに世の全ての人たちに分けられたら素晴らしいであろうと私は思うようになりました。そして、その世界を「The Divine Life Society」と名付けたのです。

\*シュルティ： 天啓書 仙人などが神秘的な靈感によって神々から授かったもので、絶対的な権威が与えられている。広義のヴェーダ文献群を指す。

20世紀になってから世界を驚愕させるような出来事が、次から次へと起こりました。近代過去は戦慄と戦争の歴史です。それにより多くの人たちが苦しんできました。もちろん我々の苦痛は、我々の業がもたらしたものです。人類を失策と愚行から目覚めさせ、傷口を治す。人間の目的を価値ある方向に持っていくことこそが世界が望んでいることなのです。これに応えるように私は“Divine Life”（神聖な生活）を起こし、人を低い次元から助け上げて、宇宙との真の関係を意識するまで高めていく仕事をしたいと思いました。これこそが、宗教意識の目覚めと、人の中の神聖な要素への気づきを促すことだと確信したのです。

議論、討論で人に宗教を理解させることはできません。また戒めや規範の教えで宗教を信じさせることもできません。宗教を得るには環境との調和、世界の広さのみでなくその深さも感じる力を持つ、創造への限りない同情心が必要です。宗教は生きています。それは喋ったり、見せびらかしたりするものではありません。どのような宗教を信じてもよいし、どの聖人を崇めてもよいのです。ことば、国柄、年齢、性別に関係なく聖なる意味“修業”を良く理解していればよいのです。修行とはその人が置かれた環境と条件の下で、日常生活の中でいかにセルフコントロールができるかなのです。

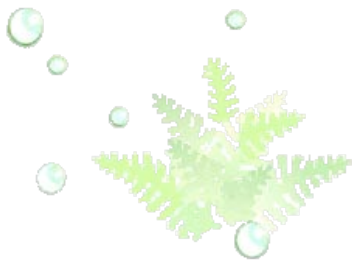
真の宗教は心の宗教です。しかし、その心が純化されなければ事が始まらないのです。真の宗教の基本は、真実・愛・純粋です。大自然に溶け込む、心の統制、道徳心の養成、人類への奉仕、善意、友情、友好が真の宗教なのです。「The Divine Life Society」の基本はこれです。私はこれを自身で実行することによって、教えようと思いました。実証例は教本よりも強いからです。

近代思想家は厳しい修行と質素な宗教礼拝を続ける時間と忍耐力を失くしてしまいました。今や、こうした修行は迷信のレベルにまで下げられてしまいました。私は現代人に真の宗教的なまじめな修行の利益を教え、修行の真価を分かってもらい、それが自分のために素晴らしいことなのだを理解してもらうために、“Divine Life” の灯を掲げたのです。

そうして、行者だけでなく、サラリーマンでも採り入れられる、そういう宗教的な生活を指導したいと思ったのです。学者でも普通の人間でも、それぞれの人のおかれている環境に応じてやれる宗教生活。人間が毎日の生活の中に、最高の意味を見出すことこそが真の宗教と私は考えます。“Divine Life” は普通の人々が毎日の生活の中に採り入れ、簡単にできる良さにあります。教会、モスク、お寺、どこに行ってもよいのです。どの祈りのことばを使ってもよいのです。それを聞く耳は一つしかないのですから。

しかし、真実を追求しながら移り気になんか負けてしまう人も多いのです。精神の道を歩む人はよく挫折するか、途中で投げ出してしまふのです。落とし穴は無数ですが、諦めない人は、実在と知識と至福なる宇宙の様相に触れて、人生の目的地に達することができます。私は著書の中で、私たちの精神の発展段階に合わせて揺れ動く感覚と心の統制、魂の純化、内なる平和と強靭さを強調しました





また、Give(与える・贈る)ことは人間最大の義務だと私は悟りました。社会に贈る。充分に贈る。愛を込めて贈る。期待なしに。結果を考えずに。与えても何も失くなりません。それどころか贈れば贈るほど千倍にもなって返ってくるのです。チャリティ(仁愛、慈善)はものを贈る行為だけをいうではありません。贈る気持ち、感情、理解、他への気配りを含んでいます。チャリティとは自分のある部分を他に捧げることなのです。最高のチャリティは“知識の贈り物”といえるでしょう。

善の人であること、また善を行うことは、人間の人生の根幹であると考えべきです。善の人とは他がどう感じているのか、他の人の感情と生活を感じ取れる能力がある人のことで、善い行いとは他の人を傷つけない行為をすることです。自分の一番奥に善を持つということは、見かけほど易しいことではありません。実際にはこの地上で一番難しいことなのです。正直になるしかありません。

私には肉体を中心とした世界は存在しません。私には全てのものが神の栄光に見えるのです。どの顔にも、どの目にも、どの足にも私はプラクリティ(根本原質)と共に宇宙を創造するプルシャ(真我)を見ます。蓮華の花びらにもプルシャを見るのです。私は人につくす時、神のお姿を人の中に見ます。私は神の気力を吸い、神のお喜びを頂いているのですから、謙虚でなくてはなりません。

私の哲学は何も夢を見るような、主観的な、世界を嫌う幻想主義、また感覚にあふれた人道主義を説くものではありません。私は宇宙に顕現する神、靈魂の不滅、神による創造のみを主張します。ただひとつなるブラフマン(宇宙神)はいろいろな形を変えて顕現しているので、修行者は高い水準に到達する前に低次元の現象を体験するのです。このように、健康、真の理解、深い知識、確かな道徳が、自己完成の実現には欠くことができません。自分を完成させるためには、段階を経なければならないのです。

その経路において自分を他に合わせ、取り入れ、受け入れ、全てに善を見、大自然に上手に溶け込むことを学んで欲しいのです。人間の持つ力の巧みな調節も、真の哲学を身につけていくための一部になります。知識だけで哲学は解りません。実践を伴ってこそ哲学といえるのです。私の書物の中に自己完成のための Sadahana(修行)を行なう上で、肉体、気、精神、知識の質をたかめ、意識レベルを上げる方法を述べておきました。そうして、純粹意識を得た自己完成者は、“神そのもの”となるのです



あらゆる状態と形にアートマン（本来の自分）を感じ、生活のどのような条件下でも、あらゆるところにブラフマン（最高実在）を感じ取る。見えるもの、聞こえるもの、味わえるもの、感じられるものすべてにアートマンを見る。これが私の教義です。ブラフマンの中に住み、ブラフマンの中に溶け、ブラフマンに合一すると私は信じます。このような合一の中に住み、手・心・感覚・からだを人類の奉仕に使い、神のために歌い、人々の志を高め、求める人を導く、これらの知識を世に広めることが私の教義です。あなたはこういう教義を信じますか？



このように、宇宙とともに生き、宇宙を大切にし、貧困と絶望、失意の底にある人たちの友であることが、私の信条です。病人に仕える、気持ちを込めて看病する、同情と愛、落ち込んだ人を励ます。力と喜びをみんなに与える。みんなとひとつになる。全ての人を平等に視る。私の最高の信条には農民も王もなく、乞食も皇帝もないのです。男と女の違いはなく、教師と生徒の違いもないのです。私はこのような、すばらしい王国の中に住みたいのです。

しかし最初の踏み出しが難しいのです。一步、踏み出せば歩みはなんとか進みます。人々に、もっと勇気と忍耐を持って欲しい。逃げる、ひるむ、恐れる、これは人が自分の真の義務に気がついていないからなのではないでしょうか。この世界をはっきりと把握するためには、ある程度の学習と知識が必要です。今の教育制度は人間の深みに触れておらず、見直しが必要と思われます。このような制度改革は社会の協力だけでなく、行政面が変わらないとできません。両者がお互いに歩み寄らなければ成功しません。知と心は両手のように結ばれていなければならないのです。理想と現実がお互いに歩み寄らなければいけません。このようにして働くことをカルマヨーガ（行為のヨーガ）と呼びます。神はバガヴァッドギーター聖典の中でこれを私たちに示されました。

私はこのような最高の理想が、毎日の個人生活の中で実践される真の天国が出現することを祈ります。これは希望ではなく、可能な話なのです。どうか、この事実を否定しないでください。あなたが本当に人生の意味を探しているのなら、これらの事実を認識してください。